

# 2023（令和5）年さけます来遊状況（第4報：12/31現在）

## 4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、3年魚（2018年級）と4年魚（2019年級）は前年、平年ともに下回り、5年魚（2018年級）は前年を上回っているが、平年の25%
- 北海道太平洋側では5年魚が平年の9%と1994（平成6）年以降で2番目に少なく、北海道日本海側では5年魚が平年の54%
- 本州太平洋側では3年魚（2020年級）、4年魚が1994年以降で最も少なく、本州日本海側では4年魚が1994年以降で最も少ない
- サケの平均重量は北海道で3.02kg、本州で3.01kgとなり、北海道は1994年以降で3番目に小さい

\*1：平年とは、1994（平成6） - 2022（令和4）年の平均値

### ・サケの年齢組成 （全国）

全国の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、12月31日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が19%、3年魚（2020年級）が10%となっています。前年同期との比較では、3年魚は27%、4年魚は69%と前年を下回っていますが、5年魚は188%と前年を上回っています（図1）。平年同期との比較では、3年魚は63%、4年魚は56%と下回っています。5年魚は25%と下回っており、1994（平成6）年以降で4番目に少ない状況です。

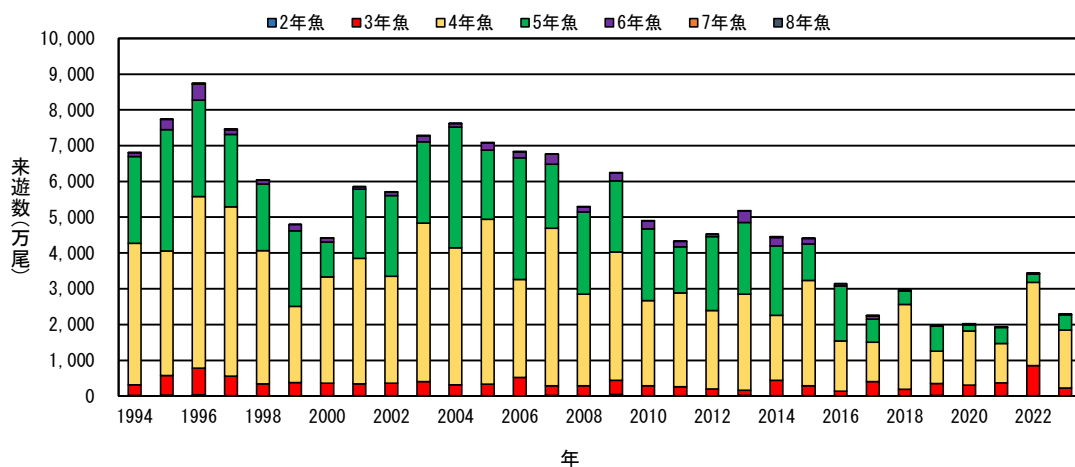


図1. 12月31日現在のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が15%、3年魚（2020年級）が14%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の40%、平年同期の57%、4年魚は前年同期の66%、平年同期の27%、5年魚は前年同期の147%、平年同期の9%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で2番目に少ない値となっています（図2）。

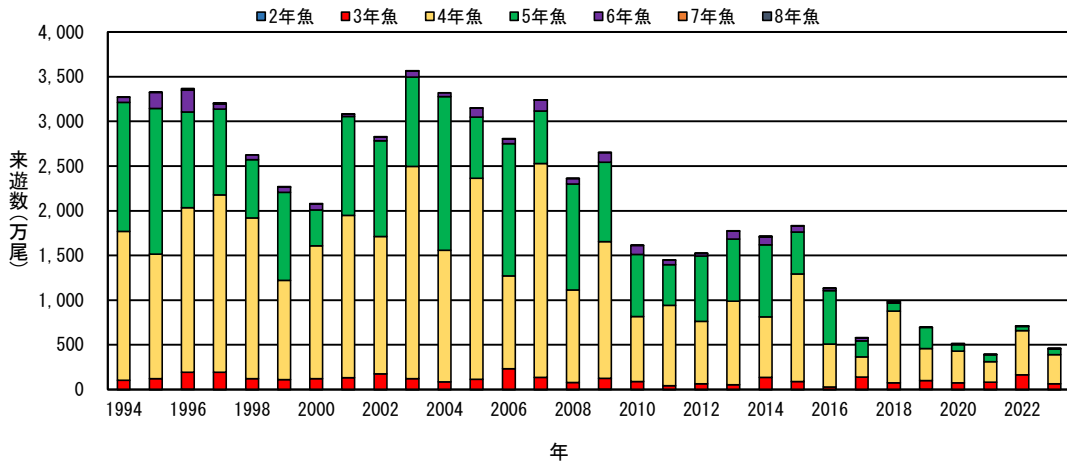


図2. 12月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の38%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の32%の水準となっています（図3）。

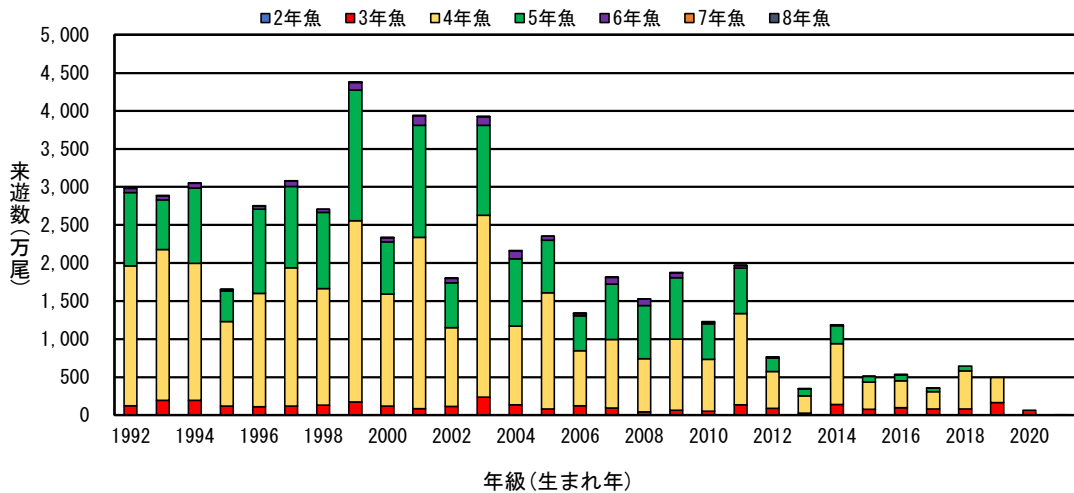


図3. 12月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2019年級）が全体の71%を占めて最も多く、次いで5年魚（2018年級）が20%、3年魚（2020年級）が9%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の23%、平年同期の114%、4年魚は前年同期の72%、平年同期の119%、5年魚は前年同期の198%、平年同期の54%となっており、5年魚は1994（平成6）年以降で7番目に少ない値となっています（図4）。

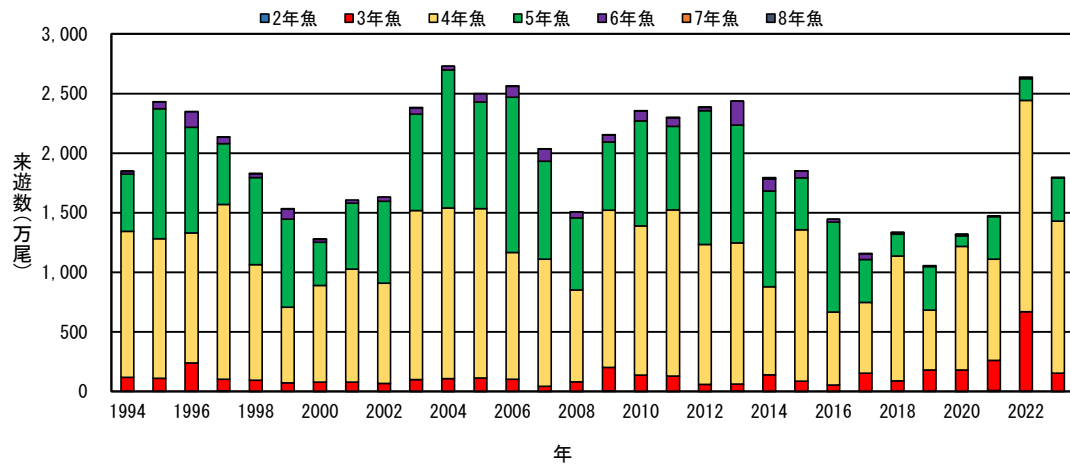


図4. 12月31日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の166%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の133%の水準となっています（図5）。

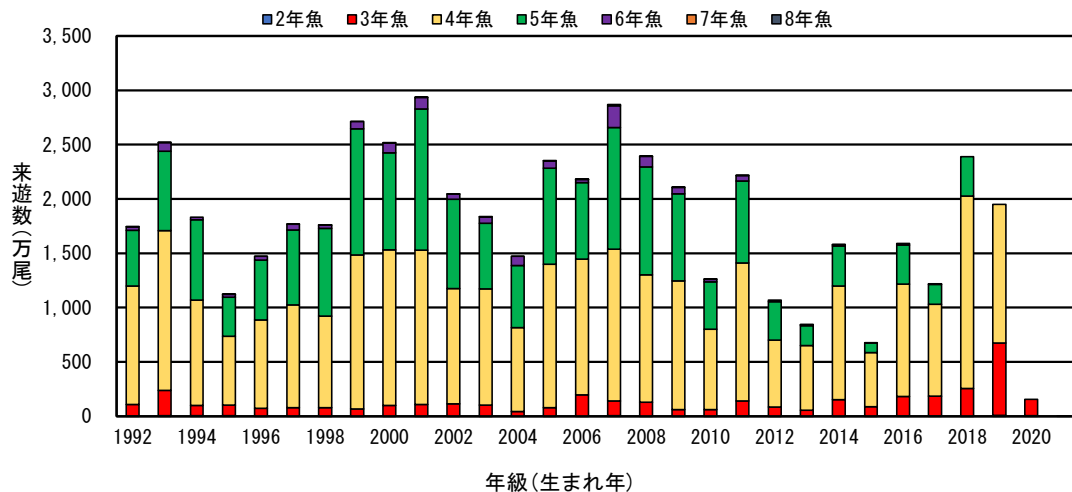


図5. 12月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚（2019年級）が全体の39%を占めて最も多く、次いで3年魚（2020年級）が33%、5年魚（2018年級）が28%を占めました。3年魚の来遊数は前年同期の71%、平年同期の3%、4年魚は前年同期の12%、平年同期の1%、5年魚は前年同期の129%、平年同期の1%となっており、3年魚および4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値、5年魚は1994（平成6）年以降で2番目に少ない値となっています（図6aおよび図6b）。

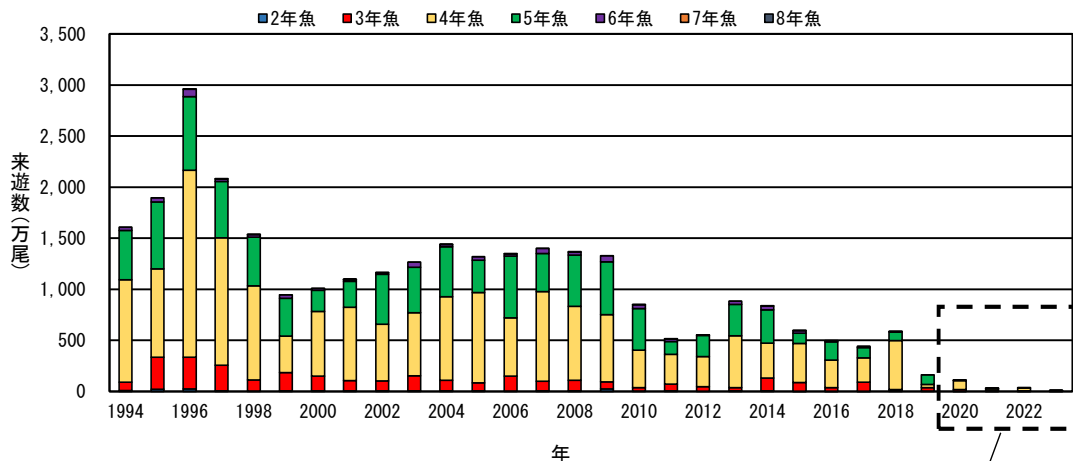


図 6a. 12月31日現在のサケ年齢別来遊数（本州太平洋）.

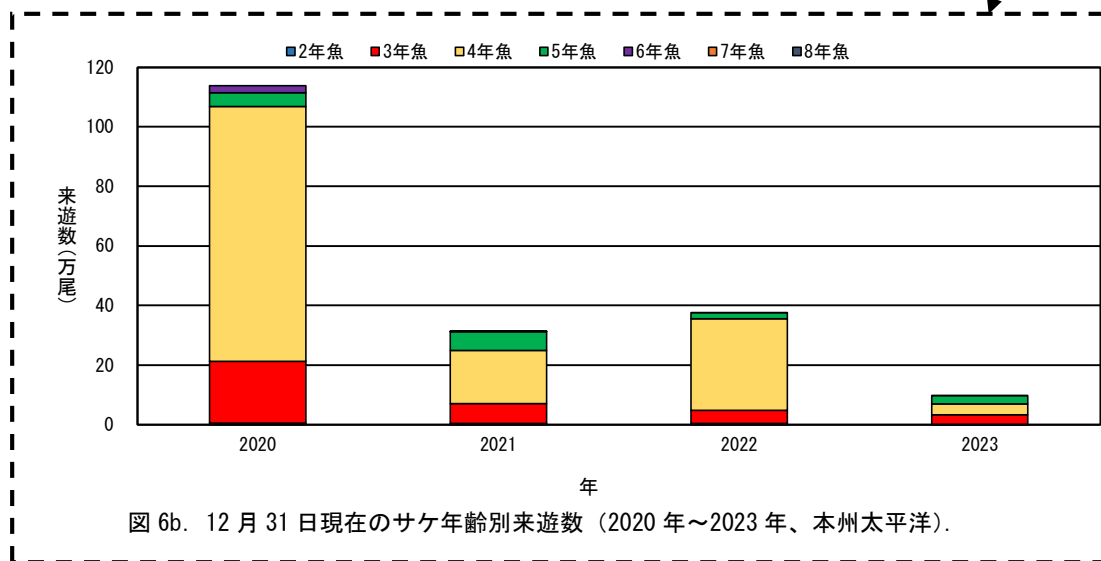


図 6b. 12月31日現在のサケ年齢別来遊数（2020年～2023年、本州太平洋）.

本州太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の1%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の4%の水準となっています（図7aおよび図7b）。

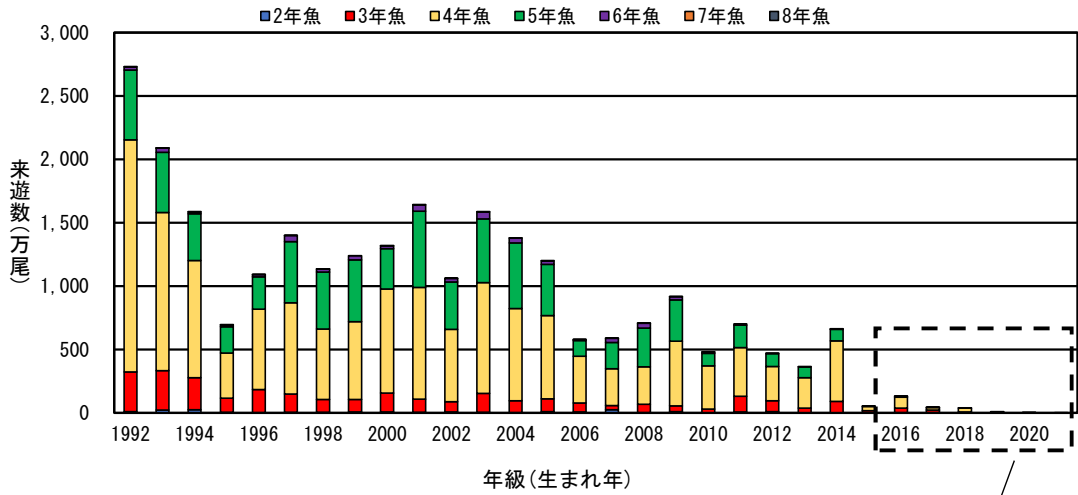


図 7a. 12月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

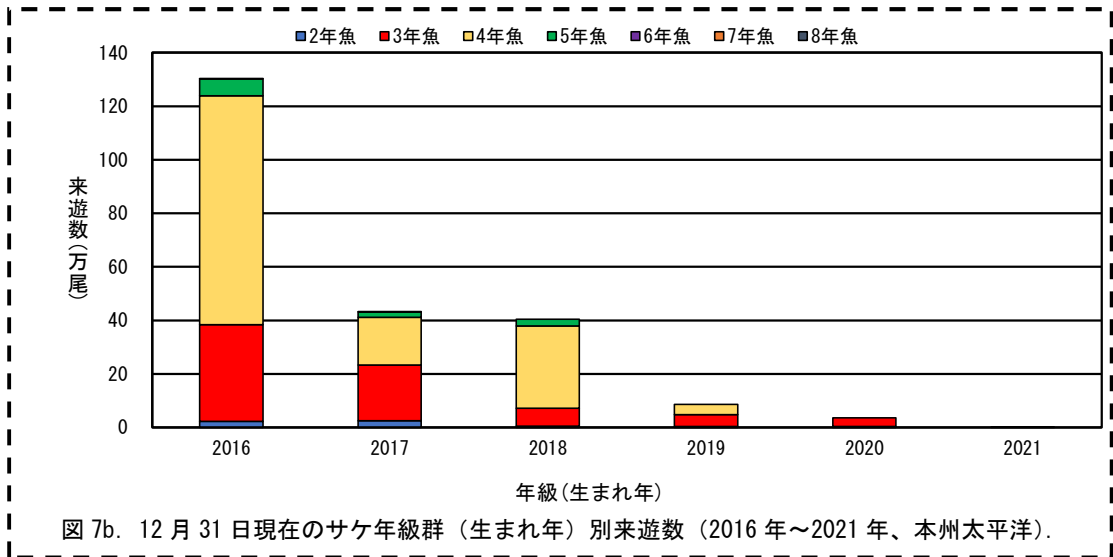


図 7b. 12月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2016年～2021年、本州太平洋）.

(本州日本海)

本州日本海側では、4年魚（2019年級）が全体の51%を占めて最も多く、次いで3年魚（2020年級）が36%、5年魚（2018年級）が13%を占めました。3年魚の来遊数は前年同期の49%、平年同期の44%、4年魚は前年同期の31%、平年同期の20%、5年魚は前年同期の214%、平年同期の17%となっており、4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図8）。

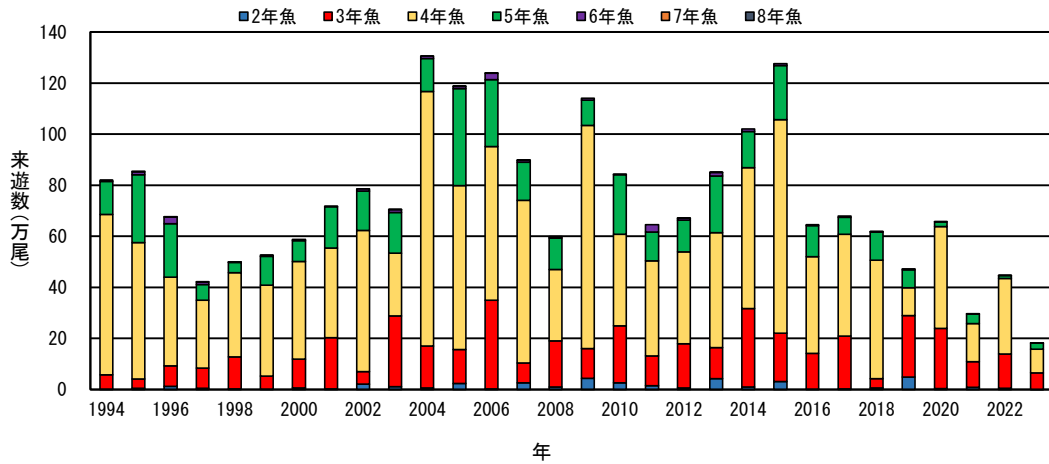


図8. 12月31日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

本州日本海側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2019年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2018年級の平均の39%の水準となっています。また、今年の5年魚である2018年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2017年級の平均の57%の水準となっています（図9）。

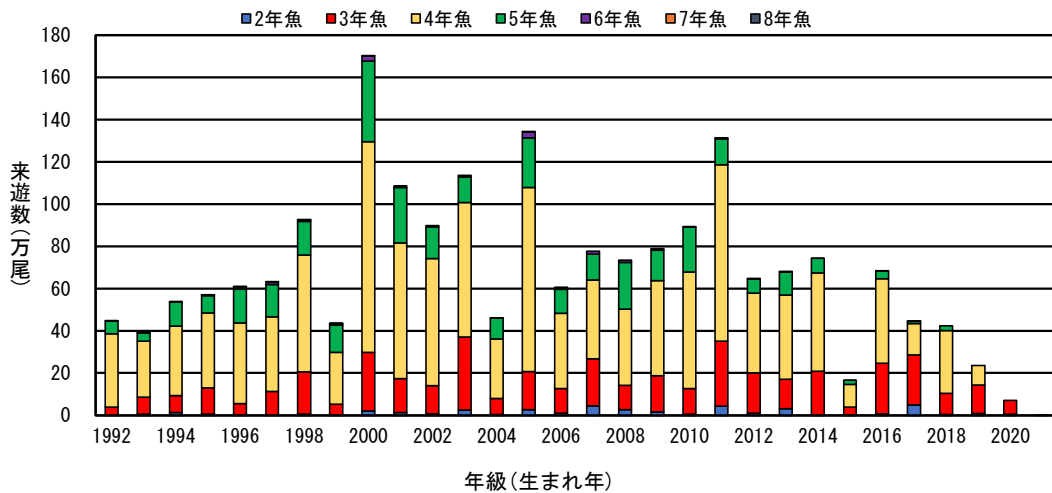


図9. 12月31日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ

(北海道)

北海道における12月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.02kgであり、前年同期の平均重量2.83kgを上回りましたが、1994(平成6)年以降で3番目に小さい値となっています(図10)。

また、北海道の主要河川に12月31日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は65.4cmであり、前年同期の平均尾叉長64.8cmよりも大きく、1994(平成6)年以降で10番目に小さい値となっています(図11)。

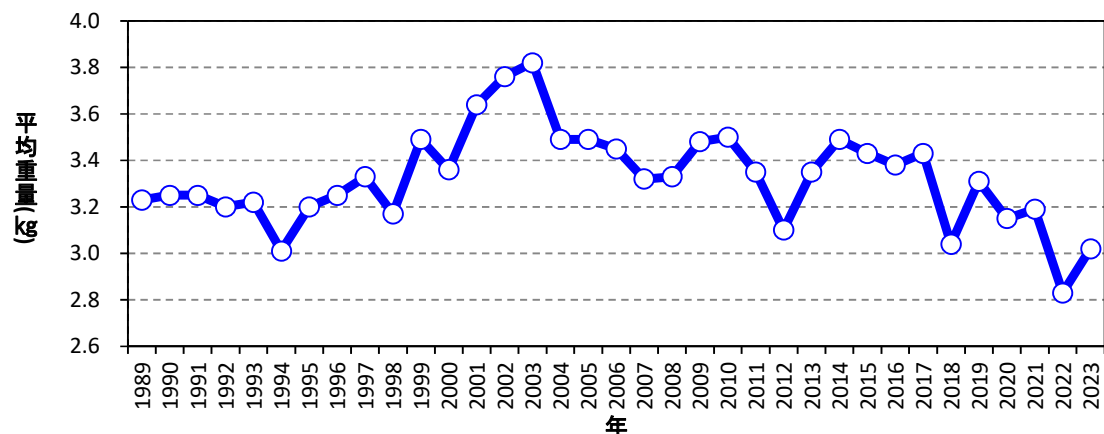


図10. 12月31日現在のサケ平均重量(北海道)。

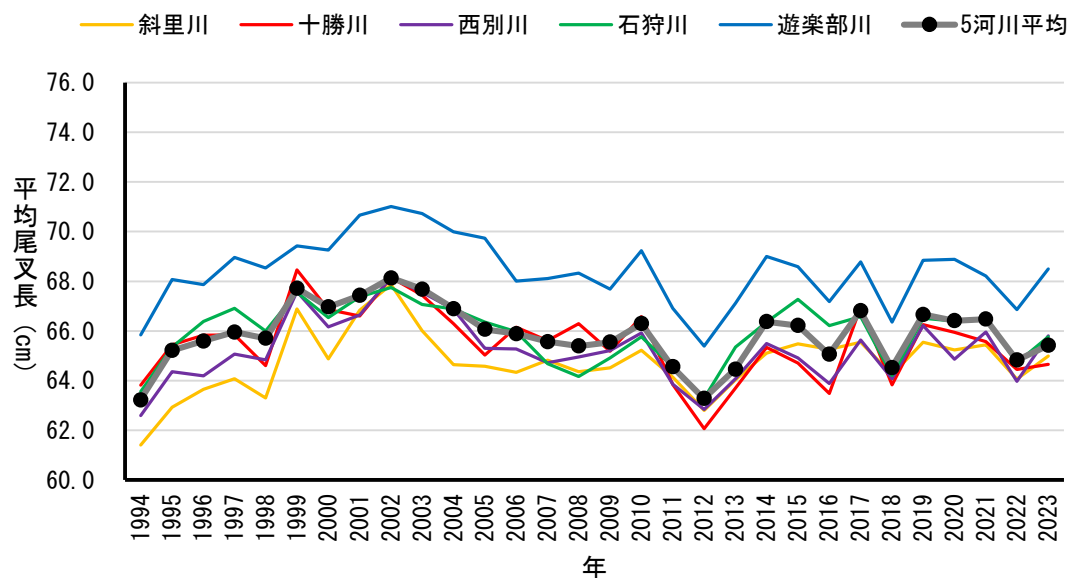


図11. 12月31日現在の北海道主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長。

(本州)

本州における12月31日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.01kgであり、前年同期の平均重量2.75kgを上回りましたが、1994(平成6)年以降で8番目に小さい値となっています(図12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に12月31日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ69.4cm、70.9cmであり、前年同期の平均尾叉長の67.7cm、69.3cmよりも大きくなっています(図13)。

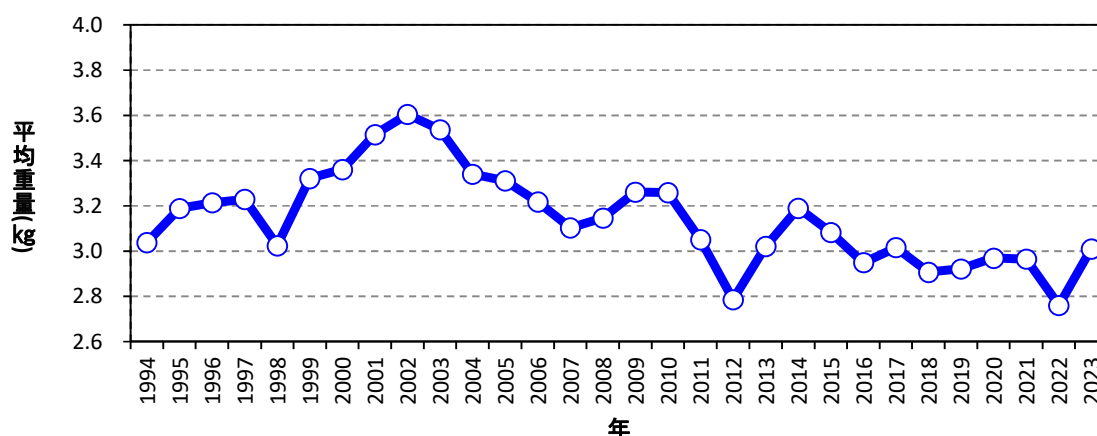


図12. 12月31日現在のサケ平均重量(本州).

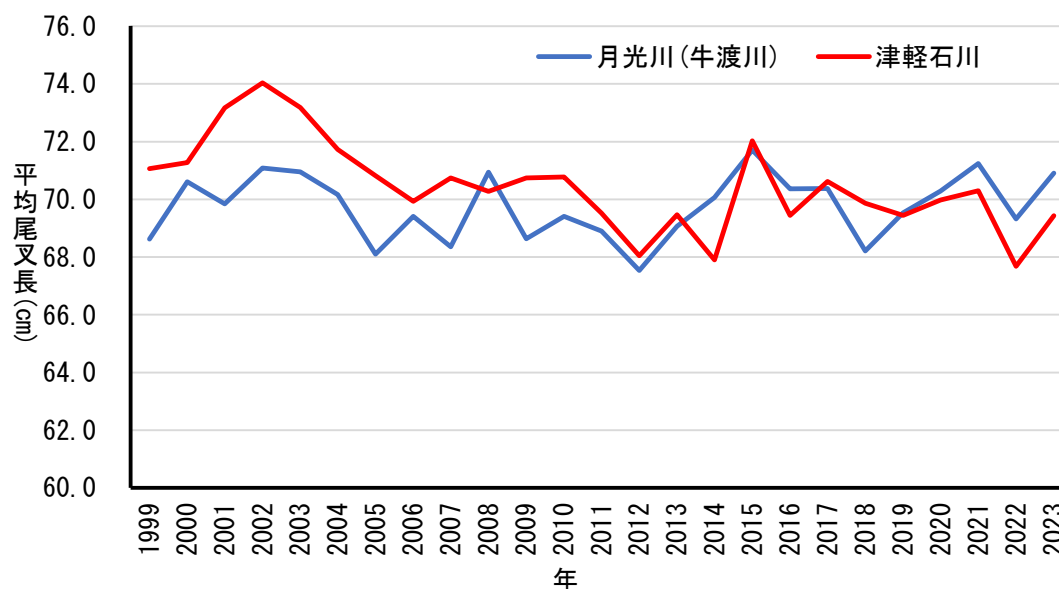


図13. 12月31日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.